

予算方針に関する説明会を求める意見書

島根大学長
本田雄一殿

2004年5月13日
島根大学教職員組合

今年度の学内予算配分を示され、そのなかで各学部の教員が教育と研究に使うことのできる経常的な経費が、昨年度に対して大幅に減少することが明らかになっている。

各学部の教授会において、予算額の提示はなされたが、その決定の根拠となる今年度の、そして今後の島根大学の運営方針について、教員が理解できるような説明はなされていない。

教員組織においては、提示された予算配分案のままでは、従来行ってきた学生教育の水準を維持することさえも困難だという、意見ばかりが聞かれる。基本的には競争的配分を求める意見をもってきた階層にも、不満の声が聞かれる。今年度拡大させた、政策的、競争的配分については、その配分の結果に対して、従来に増して十分な評価が必要だが、それについても不安視、疑問視する意見がある。競争的配分の拡充はやむなしとしても、予告、説明のない中で急激な変更を行うことは、今年度の教育と研究を大幅に阻害し、結果、今後の活動に多大な悪影響が残ることが心配される。

今回の予算配分は、教育研究に関する方針とともに示されなければ、島根大学が掲げる理念「学生が育ち、学生とともに育つ大学」とも整合しないものとなる。このままの状況が続くことは、大学の設立の目的である、教育と研究の業務の本体を担っている教員の士気の低下をまねくであろう。

全学の教員に対し、予算を軸に、今後の島根大学の教育と研究の方針を明確に説明し、意見を受け付けるための説明会を、大学の責任において開催すべきだと考える。